

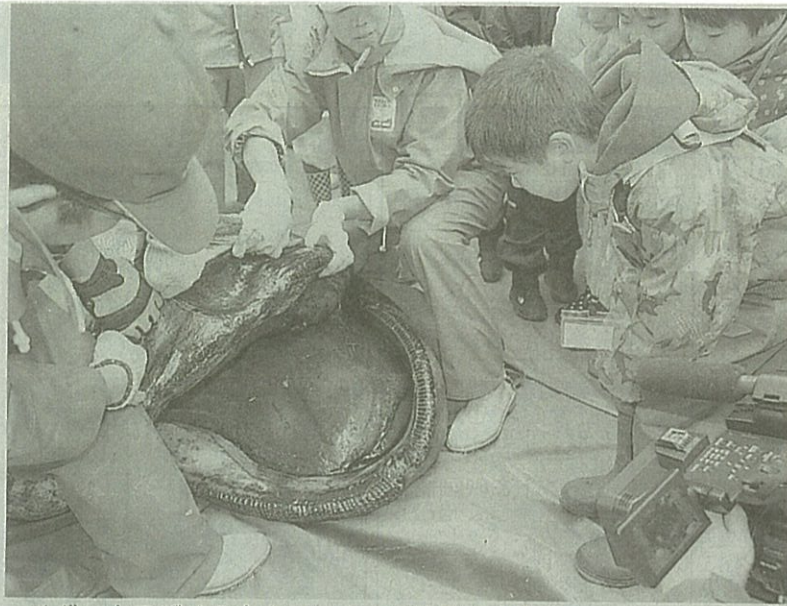
# 「大口」にびっくり

## 鴨川メガマウス公開解剖

館山市沖で昨年5月に捕獲された世界的にも珍しい「メガマウスザメ」の公開解剖が24日、鴨川市の鴨川シーワールドであった。年間パスポート会員の小学生50人に特別公開され、興味深そうに見守った。公開解剖を行ったのは、

北海道大学の仲谷一宏名誉教授(72)。サメの形態学や生態学が専門で、メガマウスザメを解剖するのは今回で5例目という。

解剖されたサメは全長5・53メートル。昨年5月22日に館山市洲崎沖の定置網に入っているのが見つか



メガマウスザメの大きな口をのぞき込む小学生

り、近くのいけすに移されたが、翌日死んだ。メガマウスザメの捕獲記録は世界では111例あり、日本では22例のうちの21例目。貴重なサメのため、研究に役立てたいと鴨川シーワールドが引き取り、冷凍保存していた。

解剖に先立ち、仲谷名誉教授が、1976年にハワイ・オアフ島で世界で初めて発見されたことなどを小中学生に特別講義した。

仲谷名誉教授によると、解剖では「世界初」の発見という、子宮内から受精後の「卵殻」の一部が見つかった。サメは受精後すぐに母体に出される(産卵)か、親とそっくりな形になるまで母体内にとどまり産み出される(卵胎生)かに分かれる。メガマウスザメはほぼ卵胎生とみられていたが、受精後の卵殻が見つかったことで、研究が進むきっかけになるとみられる。

解剖はあと数日続き、全身骨格標本にする予定という。サメは軟骨部分が多く技術的に難しいが、鴨川シーワールドの勝俣浩館長は「来年度中には完成させたい」と話している。(川上真)